

# サフロン・ウォルデン 町の見どころ

## —Saffron Walden Town Trail—

### 1. Market Place マーケットプレイス

市場は13世紀から変わらずに今でも毎週火曜日と土曜日にこの場所で開かれている。

マーケットプレイスはヴィクトリア朝の建物に取り囲まれている。パークレイズ銀行はGibson&Co.の銀行として1874年にEden Nesfieldにより設計された。ジョージアン様式の市庁舎に加えられた石の前廊と木骨様式はEdward Burgessにより設計され、1879年にGeorge Stacey Gibsonから町へ贈られた。ツーリストインフォメーションセンターはこの場所に入っている。飲用噴水もプリンス・オブ・ウェールズとデンマークのアレクサンドラ王女との結婚を記念して1863年にGibson一族から町へと贈られた物であった。図書館はかつて穀物の取引場であったが、Richard Tressにより設計されたイタリア様式であり1848年に完成した。

### 2. The Old Sun Inn オールドサンイン

オールドサンインが建つ交差点は四隅の全てに木骨組の建物がある。オールドサンインは文化財リストに1級として記載された区域の14世紀にさかのぼる住居と店舗であり、pargettingと呼ばれる多くの異なるタイプの装飾的な漆喰の作品が見られる。これらは表面に彫られた反復模様を含み、手だけで描かれたデザインとより後期の浅浮き彫りの鳥や果物があり、おそらく1676年のものだと推定される。一番端の切妻屋根には二人の人物が表され、彼らはTom HickathriftとThe Wisbech GiantまたはGogとMagogではないかという見解に分かれている。

### 3. Museum and Castle Ruins 美術館と城跡

美術館の収集品は美術館としての目的で建てられた物のうち国内で最も古い建造物のうちの軒に収蔵されており、1835年に完成した。美術館の民族誌学的な収集品は国にとって重要なものである。それはマンモスの牙やミイラ、チューダー朝初期のベッドから博物学のギャラリーまでの全てを保有している。ウォルデン城はエセックスのGeoffrey de Mandeville 3世伯爵により1130年代または40年代に建てられた。現存する遺跡である火打石と追撃砲は残された唯一の物であるが、内郭と外壁の並びは現在の町の中心を形成することに役立った。当遺跡は文化財リストに1級として記載されている。



#### 4. Castle Street キャッスル・ストリート

この通りは 1140 年代の新しい都市計画の一部であったが、大部分の木骨組の邸宅は 1500 年前後にさかのぼる。何軒かの家は文化財リストに 2 級として記載された建物であり、はるか昔と近代の漆喰塗りの多くの例が見られる。通りには多くの珍しいウォルデンの家があり、最も特定しやすいものは 49 番と 51 番の家である。1 棟の中にある当様式の邸宅は通常ケント州と関連がある。これらの家はサフロン・ウォルデンの住居に共通して見られる上げ下げ窓を持つ。1800 年代までこの地は町のより貧しい地区であり、多くの住居は小さな家に分かれている。屋根の線の明らかな破損は元の家の大きさについての糸口を与える。

#### 5. Fry Art Gallery and Bridge End Garden フライアートギャラリーとブリッジエンドガーデン

ブリッジエンドガーデンへ続く小道の途中にフライアートギャラリーはある。ギャラリーはフランシス・ギブソンにより、彼の個人的な美術の収集品を保管するために 1856 年に建てられた。その後ギャラリーは彼の娘であるエリザベス・フライに引き継がれた。ギャラリーは 1930 年代にエセックスの郊外に移り住んだグレートバードフィールドグループの芸術家たちの作品の収集品を 1987 年から収集してきた。父により着手されたブリッジエンドガーデンを拡張し、オランダ式庭園、バラ園、菜園、自然を残した場所、迷路、そして東屋があり南に面した素晴らしい芝生を導入したのはフランシス・ギブソンであった。庭園は現在ヘリテージロタリーファンドの支援を受けて復元されている。

#### 6. The Eight Bells エイト・ベルズ

エイト・ベルズはサフロン・ウォルデンの中で文化財リストに 2 級として記載されている 27 軒の建物のうちの 1 軒であり、異なる要素の集合体である。道路に面した右側の角が 15 世紀のものであり、一方通りに面した正面は連なった 2 階の張り出した部分、または 2 階の部屋を拡張するために作られた突き出た部分の特徴とする 16 世紀後期の増築のものである。建物には上の階を支えるむき出しの水平の梁であり見事に彫刻された大まぐさがある。この建物は町の中でも 2 階と 1 階の窓の両方が原型の位置をとどめる数少ない建造物のうちの 1 軒である。Madgate の谷にかかる橋にある警察署長 Campling への記念碑は、ある晩に彼がエイト・ベルズのパブを去った後に何者かに殺害されたことを追悼している。加害者とされた者は裁判で罪に問われなかった。



## 7. Myddylton Place and The Close ミディルトン・プレイスとクローズ

ミディルトン・プレイスは1級として文化財リストに記載された、町の中でも最も素晴らしい中世の建物のうちの1軒である。これは複合型の店舗、住居、問屋として1490年代に建てられた。ブリッジストリートには見事な玄関があり角には彫刻されたドラゴンの柱がある。屋根の中にある貨物用の昇降機は建物の一部が麦芽を製造するために改築された19世紀初期に付け加えられた。ミディルトン・プレイスから対角線上に交差した道に建つクローズは17世紀の珍しい“スパイダー”窓を含む増築のある15世紀後期の素晴らしい木骨組の家である。

## 8. Parish Church of St Mary the Virgin セント・メアリー・バージン教区教会

エセックス州の中でも最も初期の特徴をもつ最大の教区教会は1250年にさかのぼるが、教会の大部分は1470年から1525年の間に垂直様式に再建された。教会の大きさはサフラン貿易が最盛期にあった町の豊かさを反映している。1832年に尖塔が付け加えられ、塔は193フィート(59m)の高さになる。教会の内部には壮観なロイヤルランペットと中世の9つの真鍮作品、そして素晴らしいステンドグラスの窓がある。モニュメントの中にはベルギーの粘板岩で作られた南の礼拝堂にあるオードリー卿の墓とR.A.Butlerの記念刻版があり、Butlerの墓は教会の庭の東の端にある。

## 9. The Cross keys クロス・キーズ

クロス・キーズは後の建て増しがある15世紀の木骨組のかつての住居と店舗である。屋根の高さは19世紀初期に上げられ、キングストリートに面した正面の1階と2階部分には新たな窓が加えられた。全ての木骨組の部分の漆喰は20世紀初期に取り払われ、2階の窓のいくつかは元に戻された。キングストリートとハイストリートの角にある1階の部分に、15世紀当時の店の窓が2つある。

## 10. The Rows ロウズ

ロウズの起点であるキングストリートとクロスストリートの角に大きな15世紀後期の邸宅が建っている。当邸宅はどのように大きな家が3つの異なる部分に分けられたのかを、18世紀に作られた屋根を持つ大広間とともに明確に示している。

ロウズは中世以降の町の商店街であり、1630年には町にある46軒の店のうちの33軒はこの地に店を構えていた。店は市場の露店として始まり住居と店舗が結びついた耐久的な建物へと変化していった。クロスストリートには売り台と商品を覆うひしを提供するために開いた鎧戸があった良く保存されたチューダー朝の店の窓がある。

